

CO₂削減量 累計1万トンを突破

住宅向けエコ地盤改良工法

HyAS&Co

ハイアス・アンド・カンパニー(HyAS&Co)、東京・港区、濱村型二代表)が全国で代理店を募集し、事業展開を行っている住宅向けエコ地盤改良「HYSPEDD工法」は、全国における施工実績から算出したCO₂削減量が、11月末までに累計1万トンを突破した。同社は、HYSPEDD工法によるCO₂削減の実績を、同工法の公式WEBサイトで公表している。09年11月のCO₂削減実績が965・4トとなり、07年4月から09年11月末日までのCO₂削減量の累計が1万11トンとなった。同工法は、直径400mmのSPEDドリルで地盤掘削を行い、直径20mmの天然碎石を投入。碎石厚30mm程度ごとにハンマー転圧(ピストンバルブ)を行い、十分に締め固めをしながら地表まで碎石パイルを構築するもの。

天然碎石のみを使用するため、セメント系の地盤改良工法で危惧される有害物質(六価クロム)が発生することがなく、建替え時に撤去の必要がある地下埋設物扱いにもならない。また、使用重機以外からはCO₂を一切排出しないことから、環境にもやさしい地盤改良工法。

セメント系の地盤改良工法と比較した場合、平均的な二戸建ての改良工事では、約3000kgのCO₂削減効果(セメント1000kg製造時のCO₂発生量を723kgとして試算)があるとしている。また、同工法はこれまで

に、日本建築総合試験所から、宅地向け地盤改良工法の碎石パイルとしては国内で初となる技術審査証明を取得。07年4月から施工代理店制度により全国展開を開始し、

14日現在で全国122社の施工ネットワークとなっている。

同社は引き続き、環境対応型のエコ改良工法として、HYSPEDD工法の普及拡大を目指す。